

徳用光松八幡神社へ

徳用村の鎮守^{ちんじゅ}であった白山社は、神社の境内に大きな杉の木があったことから「銚杉社^{ほこすぎ}」や「男女社^{おぼこ}」といわれていました。

明治四年（1871）に前田家よりご神体を授かった白山社は、明治七年（1874）に「銚杉八幡社^{ほこすぎはちまん}」と社号を変えています。

その後の明治二十二年（1889）、さらに社号を「光松八幡神社^{こうしょうはちまん}」と改めました。「光松」という名称は、東京の穴八幡神社が光を放つ神木の松が境内にあるという伝承から「光松山八幡宮^{こうしょうざんはちまングう}」とも称することに由来します。

この改称を機に、前田家と徳用村の関係はより深まったと考えられ、明治二十四年（1891）の金沢開市三百年、同三十二年（1899）の加賀藩祖前田利家没後三百年にあたり、神社は協賛^{きょうざん}の慶賀祭^{けいがさい}を開きます。光松八幡神社は、藩主ゆかりの神社として、村人だけでなく旧藩士層^{はんし}からも崇敬^{すうけい}を集めました。



東京穴八幡神社にある「光松」の石碑



徳用の光松八幡神社の石柱